



Film

PLANET

やまだしおり



P.....PLANET

「地球は人々が手を加えずとも美しい」

写真は その風景を 隠さず 伝えてくれる。

「ここへ行ってみたい」



なぜ写真家たちはその場所を目指すのだろうか。

わざわざ危険を冒してまで撮りたい物でもあるのだろうか。

誰かに見せたい景色がそこにあるのだろうか。

きっとそれだけの価値が「そこ」にあるんだろう。

ときに人々を魅了し

ときに人々に牙を剥く

神秘的で

雄大で

美しい

自然に創られた世界が。



写真は私たちが見たものをそのまま形として残してくれます。

瞬きしている間に変わっていく色鮮やかな世界を切り取る唯一の手段。

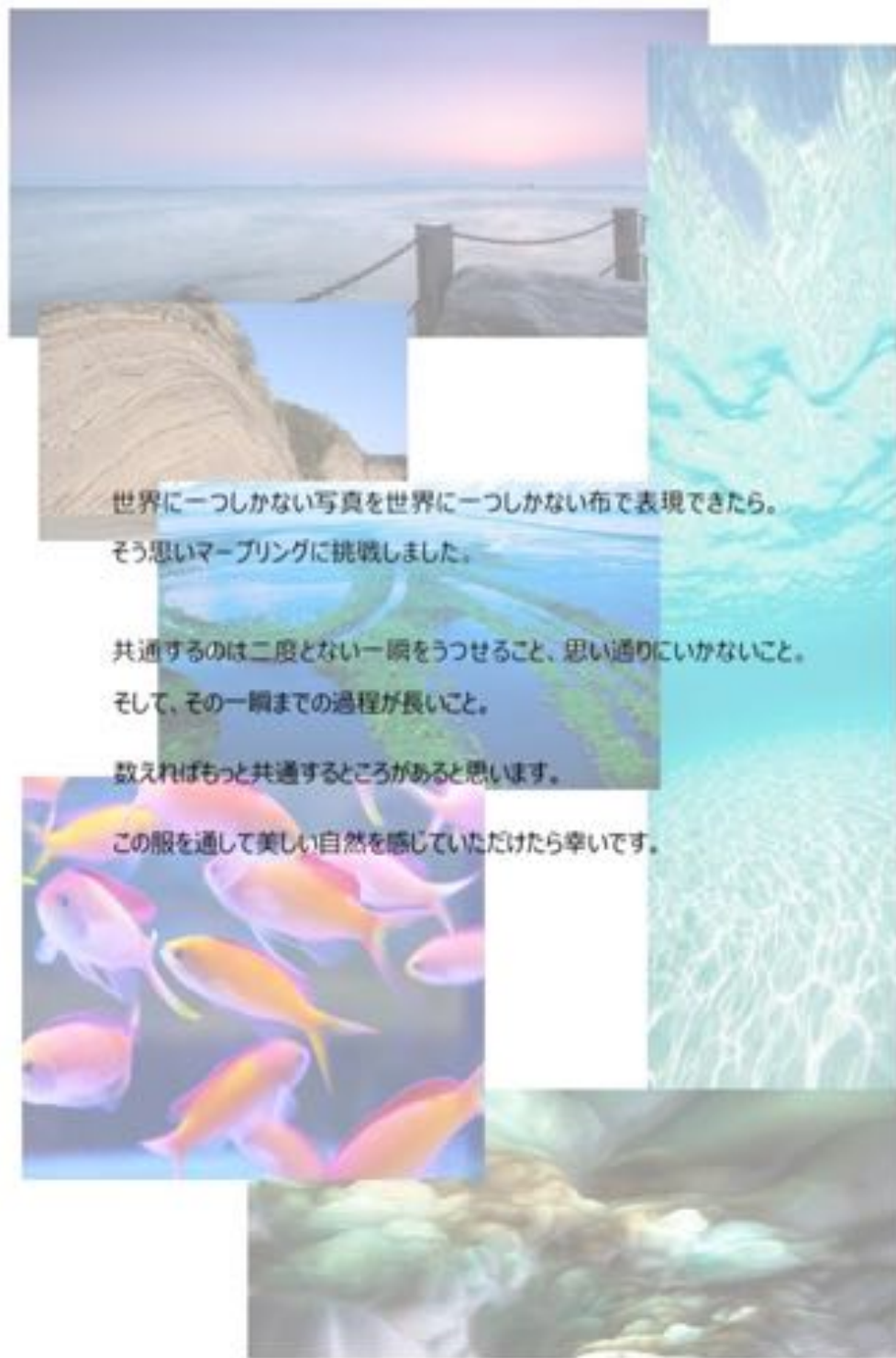
特に自然を撮ったものはそれが顕著に表れているのではないのでしょうか。

「もう一回」のきかない世界。二度と同じ景色は見れない。

その瞬間を写真家たちは

絶対に写せるという保証もないのに待ち続けるのです。





世界に一つしかない写真を世界に一つしかない布で表現できたら。  
そう思いマーブリングに挑戦しました。

共通するのは二度とない一瞬をうつせること、思い通りにいかないこと。  
そして、その一瞬までの過程が長いこと。

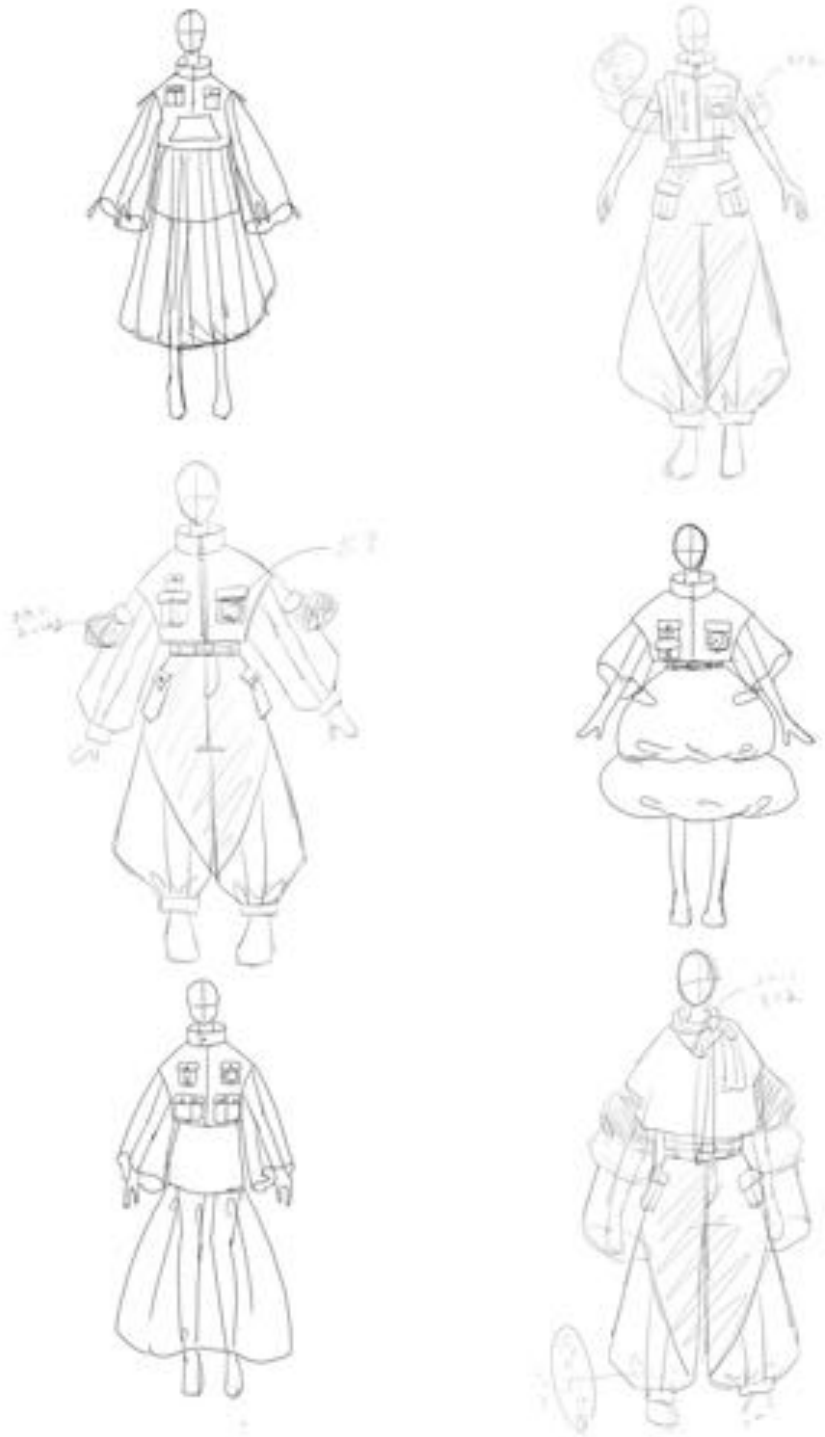
数えればもっと共通するところがあると思います。

この服を通して美しい自然を感じていただけたら幸いです。











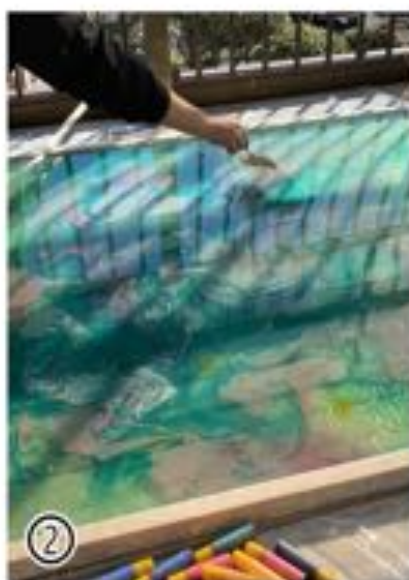


① マーブリング。水をはじく「水溜り」の上に絵の具を塗り、模様を作り、その水溜りの模様を写し取る技法。今回は約1×1mサイズで行った。事前に水と水を混ぜたマーブリング液と、定着液に浸し乾かした布を用意しておく。

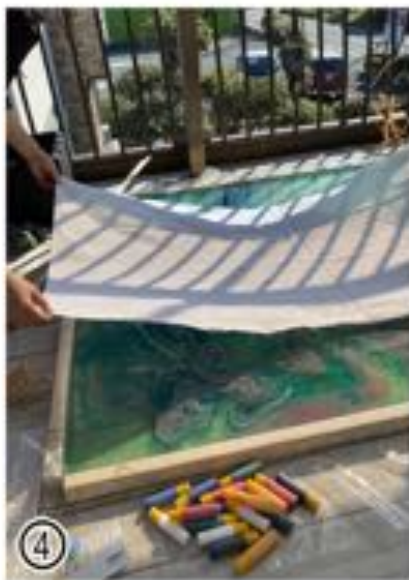


③ 布の登場。ここから先はインクが沈む前に素早く作業をする。

# M A R B L I N G



② インクを塗りしぼり棒などでマーブル模様を作っていく。上の写真で持っている物は刷りばしとグルーガンで作ってみた。下の方に写っているのがインクである。道具の動き方などでマーブル模様は変わっていく。縦、横、斜線、曲線、大きく、細かく、風の力でも変わる。



④ 布があまりたるまないように軽く張る。



⑤ 布を湿す。空気が入らないように注意する。



⑦ 持ち上げる。マーブリング液もある程度乾燥の上で落とす。

# M A R B L I N G



⑥ 布の裏まで湿す。事前に裏が裏が布の裏に書いておくことよい。



⑧ 世界で一枚だけの布の完成。この後水洗いをしてマーブリング液を完全に落とす。落とさないとマーブリング液の層が固まって曇くなる。この布はスクートの装束目のフリルに使われる。



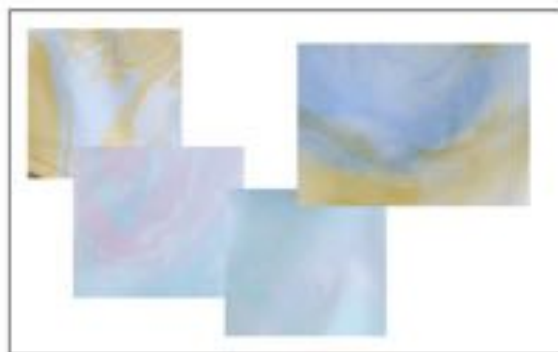






パンツの青の生地は  
アウトドアの防水生地  
トップスは帆布をそめている。  
前開きのファスナーは  
止水の物を使っている。

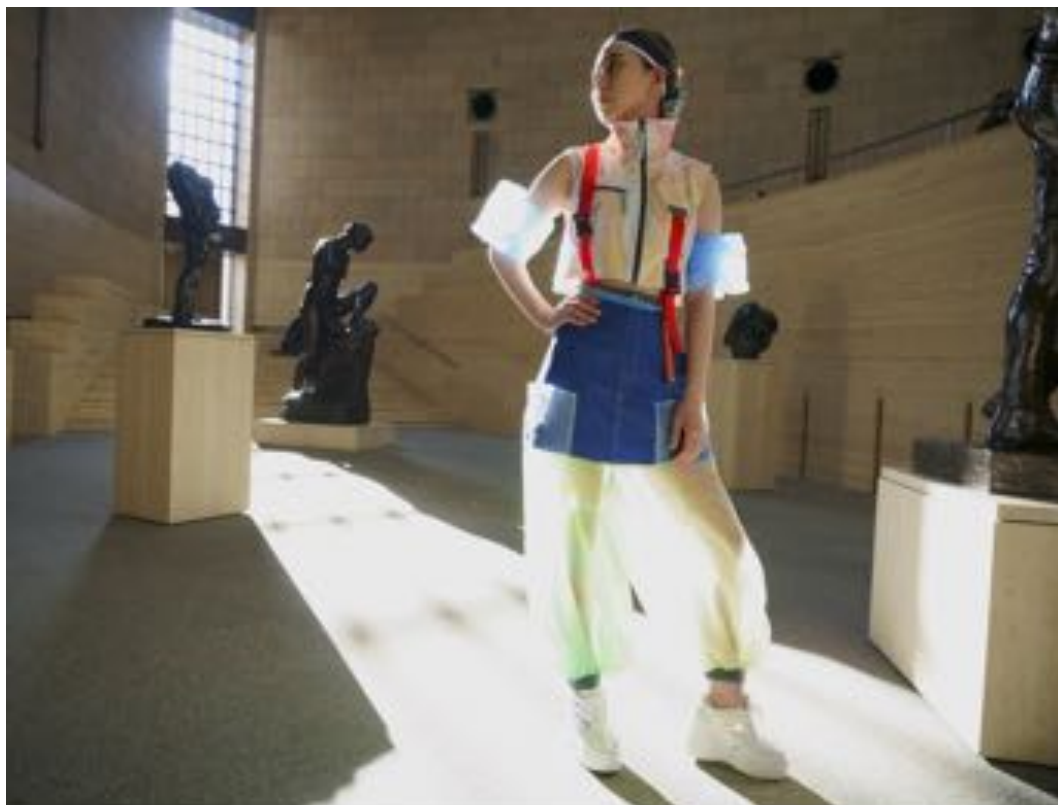




フィッシングジャケットを参考に  
ポケットやボア  
をつけた。  
スカートのフリルは四段で広  
がりをつけるために  
バニエと一枚  
一枚チュールを  
はさんでいる。





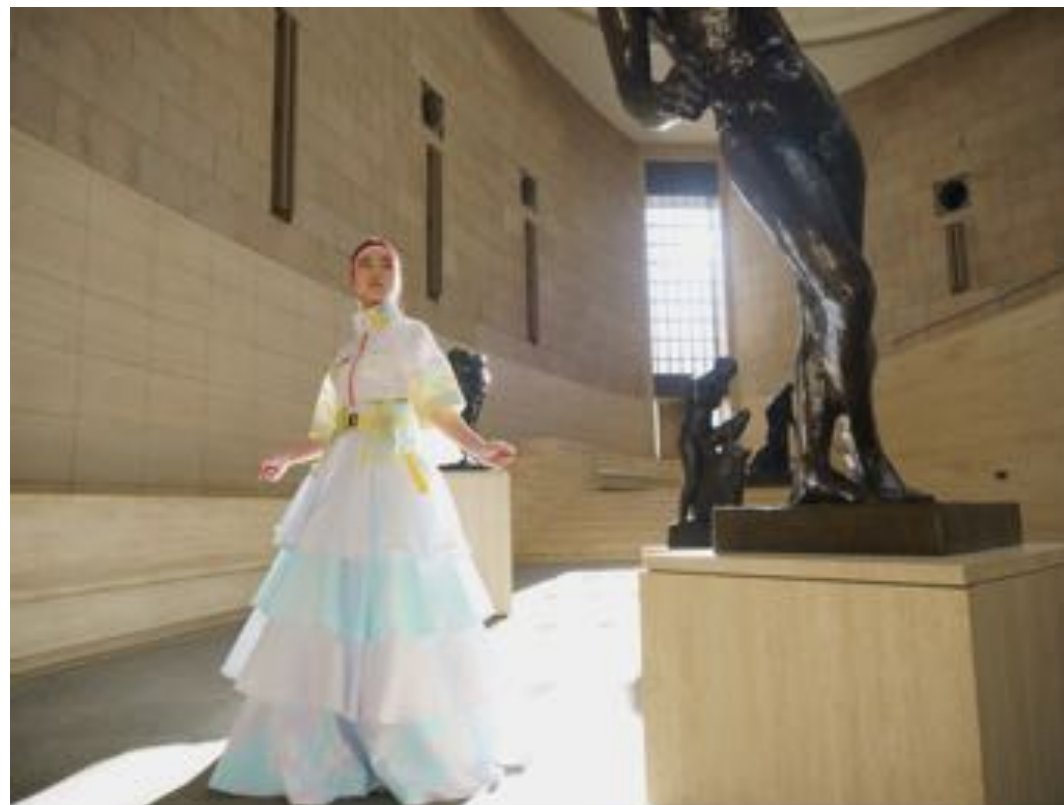


完成までの道のりは長かった。

失敗もたくさんした。

新しく挑戦したこともあった。

うまくいったときは嬉しかった。



完成した時、ここまでできるようになったのかと思った。

モデルさんに来てもらったときは感動したと同時に安心もした。

1から10まで自分が作ったもの。

この一瞬を残せて嬉しく思う。



DESIGN...山田 しおり

MODEL...島崎 紗羅 ・ 中村 舞華

MAKE UP...佐野 月美